

平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【健康・スポーツ学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性							
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
17JHSA1001	初期演習Ⅰ	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成するように導くことである。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。	○	○				○	○	○	◎	○	
17JHSA1002	初期演習Ⅱ	1	「初期演習Ⅰ」をさらに主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を踏まえた実践力を高められるよう、その基礎的能力を身につけることを目的とする。	1. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。 2. 専門領域の実践的能力を培うための導入をはかり、その基礎を身につける。 3. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章表現するなどの基礎的な能力を養う。 4. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。	○	○				○	○	○	◎	○	
17JHSA1003	健康・スポーツ科学論	1	健康・スポーツに関する科学的アプローチは、研究手法によって細分化され多岐にわたる。スポーツ科学分野では、主として自然科学領域に焦点をあて、スポーツの科学的理解を中心に進める。 一方、健康科学分野では、健康に関連する諸問題について、歴史的な背景を理解し、今後の健康の維持・増進に対する展望について考えさせることをねらいとする。	スポーツ科学分野では、スポーツパフォーマンス発揮のために様々な身体機能や種々の要因が関与しており、それぞれの関わりをエビデンスに基づき学修するとともに、実際のスポーツ場面に活用していくための基礎的知識を理解することを目標とする。 健康科学分野では、健康の概念を理解するとともに自身の健康観をもってもらいたい。そのうえで、我が国の「国民健康づくり対策」の課題解決に何が必要なのかを考え、そのために健康・スポーツ系の知識がどのような場面で活かせるのかを理解させる。	◎	○				○	○			○	○
17JHSA1004	スポーツの文化・歴史	1	本科目は次の3点によって、受講生自らが「スポーツのこれまでとこれからを考える」ことを目的とする。 ①スポーツの起源、発展・変容を学ぶ ②スポーツと文化の意味を理解する ③スポーツの文化的構造について考察する あわせて本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本科目の履修によって、スポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力をそなえた「考えるスポーツ人」になることを目指す。 そのためには、スポーツに関わる基礎的な知識を基にして、自ら学ぶという姿勢のもとに習得された幅広い知識および分析視点によってスポーツにかかわるものごと全般に対し、批判的な思考を働かせて分析できるようにならねばならない。これは、「ただ否定（肯定）する」のではなく、「本当にそうなのだろうか？」と疑問を投げかけ、適切に取捨選択した知識や情報を根拠として、自らで判断することである。 よって、本科目における到達目標を「スポーツに関わる基礎的な知識の習得」および「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれないこととなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」ことに置く。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○				○	○			○	○
17JHSA1005	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。	○	○				○	○	◎		○	
17JHSA1006	英語会話Ⅰ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	英語の基本的な文法事項などを復習し、コミュニケーション活動を通して基本的な会話英語ができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
17JHSA1007	英語会話Ⅱ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	「英語会話Ⅰ」で身に付けた基本的会話表現・スキルを応用し、さまざまな状況で英語による意思伝達ができるようになることを目標とする。	○	○			◎	○					○	
17JHSA1401	運動器の解剖と機能	1	体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。	体の構造に関する基本名称を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○			○	○	○				○	
17JHSA1008	運動生理学	1	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本講では運動やスポーツのもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的变化をもたらすか学習する。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	運動生理学の基礎的な理論を理解し身体活動やトレーニングによる身体諸機能の変化について学ぶ。 本科目は、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての指導実践において、対象者の個々の体力の違い、年齢別、性差等の諸問題を考え、主体的に取り組む事が出来る専門的知識を修得することを目標とする。	◎	○			○	○	○			○	○	
17JHSA1009	スポーツ心理学	1	体育・スポーツおよび健康づくり運動の指導および実践に関する心理学の専門知識を理解し、習得することを目的とする。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツ心理学の基礎を学び、良好なスポーツ活動を推進するための心理学的アプローチに関する知識を習得する。また、現場で起こりうる様々な心理学的問題の背景を理解し、その解決策について考え実践できる能力の獲得を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。	◎	○			○	○	○			○	○	
17JHSA1201	スポーツ運動学	1	スポーツ指導現場に必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価が出来るようにする。また、練習計画の立案が出来るようにさせる。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようになる。また、運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。運動が上手になる過程について理解し、適切な指導が出来るようになる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。	◎	○			○	○	○			○		
17JHSA2101	スポーツ医学	2	わが国の社会現状を把握し運動による予防、介護予防について理解する。メディカルチェックの重要性を知り基準値、スポーツ医学的障害を理解する。機能解剖を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者としてのスポーツ医学の知識を体得する。	医学的見地からスポーツを理解する。心身ともに健康に配慮、考慮できるようになる。主だった傷病を理解する。外傷、障害の違いを学び、予防の方法を習得する。運動の促進、停止を理解する。	◎	○			○	○	○			○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
17JHSA2102	スポーツトレーニングの科学	2	トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体の適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学的研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身に付ける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。	トレーニングによる人間の身体の適応能力についての理解を深める。特に、競技者としての活動に役立たせることができるまで、また、健康・体力の維持増進に役立たせることができるまでの理解を深めることを目指す。さらに、指導者の立場でトレーニングの現場での合理的かつ総合的なトレーニング計画の立案、トレーニングの実際を分析・評価する能力を身に付け、課題を見出し、多種多様な課題に対しての創意工夫を試みることができるための資質の向上を目指す。	◎	○	○		○	○	○				○
17JHSA2402	バイオメカニクス	2	バイオメカニクスとは、運動に関する生体系の構造や機能を力学の法則に照らして研究する応用学である。人間の身体運動に関して、運動と身体の関わり合いや動きのメカニズムを、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用し、スポーツするからだへの新しい視点を持つことを目指す。歩行、走行、跳躍、投運動、打運動などについて、身体運動のしくみをよりよく理解すること。	高度なスポーツ動作から日常生活における立ち居振る舞いに至るまでの身体運動を分析的に視る力を養い、学問的視点とスポーツ現場での視点とが、つながりを持つようになるまでの理解を図る。スポーツ技術をバイオメカニクスのに観察する力と現場における指導能力を開発することを目指す。	◎	○			○	○	○			○	
17JHSA2103	スポーツ栄養学	2	アスリートにおける体力の維持・競技成績の向上のために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、さらにスポーツに特化した専門的栄養学を習得する。	栄養・食事に関する基本的な知識を身につけ、さらに、選手において特別に注意すべき栄養学上のポイントについて理解する。	◎	○			○	○	○				○
17JHSA1202	学校保健	1	学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて体育実技を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を身につけさせるために必要な専門的知識および技能を修得することを目的とする。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は教員の立場で現代の子供たちを取り巻く健康問題を理解するとともに、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や考え方を身につける。さらに、学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子供たちの安全を確保すべきかを理解しなければならない。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○			○	○	○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
17JHSA2203	体 育 原 理	2	<p>本科目の目的は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何ができるのか」を考えることにある。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理学的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。</p> <p>あわせて本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>「体育」と「スポーツ」についての課題を発見し、多面的な思考のアプローチによって自らの考えを導き、それを論理立てて説明できるようになることを目指す。</p> <p>具体的には次のようなスキル獲得を目標とする。</p> <p>保健体育科教員、スポーツコーチとして求められる基礎的な知識や考え方の習得</p> <p>社会の変化に対応できる柔軟な発想、行動のとれる能力の獲得</p> <p>自己の考えや判断を要領よくまとめ、それを言語化して説明できるスキルの養成</p> <p>「学ぶ習慣」と「社会の出来事に関心を持つ姿勢」の涵養</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	○	○				○	◎	○		○	
17JHSA2204	公 衆 衛 生 学	2	<p>公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を十分に発揮できるような環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。</p> <p>本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>保健衛生や環境問題について幅広く知識を身につけて、国民の健康維持・増進のために適切な判断力のもとに指導できる基礎的な力を養うこと。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	◎	○				○	○	○		○	
17JHSA2104	ス ポ ー ツ 社 会 学	2	<p>本講義は次の目的のために開講する。</p> <p>現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得る。</p> <p>知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜くという技術を得る。</p> <p>本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況および歴史的変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習をとおして、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求すること。</p>	○	○				○	◎	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
17JHSA2301	スポーツ指導論	2	近年日本では多くのスポーツ種目が老若男女問わず盛んに行われるようになった。見るスポーツから実践し楽しむスポーツに形態が変化し、スポーツの役割は社会的にもまた、個人の健康の維持・増進に欠かせない。この科目では、スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法を理解することを主な目的とする。	<知識・理解> スポーツ指導における世代間伝達 スポーツ指導者の役割 <技能> コミュニケーションスキル モチベーションコントロールスキル 問題解決型思考スキル <態度・志向性> Players First スポーツ指導者の倫理 自己研鑽 <総合的な学習経験と創造的思考力> 学習した一般的内容を、自分の専門とするスポーツ種目の指導実践に応用する能力	○	○				○	◎	○		○	○	
17JHSA2302	スポーツ行政・法規	2	わが国のスポーツに関する行政組織については、スポーツ基本法によりスポーツ振興の基本的方針が示されており、この目的を実現するために種々様々なスポーツ政策が具体的に実施されている。そこで、スポーツ行政の概念および現状等について理解を深めるとともに、体育・スポーツの実施に際し起こりうるであろう、体育・スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理について理解を深めることをねらいとする。	科目修得時には、「日本のスポーツ行政組織」「スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理」などについて、論理的説明が可能となることを目標とする。	○	◎				○	○	○	○	○		
17JHSA2105	発育発達・老化論	2	乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に相応しい運動プログラムが提供できる能力を身につける。	学生が発育発達と老化の基本的な経時的、連続的過程とその重要性を理解する。	○	◎				○	○	○			○	
17JHSA2106	体力の測定評価演習	2	この科目は、健康教育や競技スポーツの実践現場で起こっている現象を体力学的視点から科学的に測定し、適切に評価できる実践的な能力を身につけることを主な目的としている。	既成のラボラトリーテストおよびフィールドテストを正確に実施し、得られた結果を基準値あるいは他者と比較して的確に評価できる能力を身につける。 <知識・理解> 測定（数量化）と評価（価値付け、位置づけ）の違い 体力の構造 平均値、偏差値、標準得点の意味 一般的体力と専門的体力の違い 形態測定における倫理 <技能> 体力要素の基本的な測定方法 平均値と標準偏差を用いた5段階および10段階評価法 データの標準化 測定されたデータのグラフ化（視覚化） <態度・志向性> 科学する態度 <総合的な学習経験と創造的思考力> グループの体力測定データからスポーツの種目特性を理解し、各自の課題を設定する能力	○	○			○	○	◎	○	○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
17JHSA2107	スポーツ経営管理学	2	現代のスポーツにおける環境は、地域のスポーツをはじめとし非常に多様化された組織の集まりとなっている。将来、スポーツ指導者という立場でその多様化されたスポーツ現場に対応しうる能力の一つとして、経営学的なものの方をもちよるようにならなければならない。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。科目修得時には、スポーツ経営について論理的説明が可能となるよう、スポーツ経営の基礎を身につけることを目標とする。	○	○			○	◎	○	○	○	
17JHSA2108	運動処方	2	現代生活の利便性により身体活動量の低下が健康問題に大きな影響を与えるようになった。そこで年齢や性差を理解した上で、多くの対象者の健康の保持・増進、体力向上のための運動処方プログラムが立案できる知識を学習する。	スポーツマンの体力向上や健康の維持・増進のために実践するトレーニングや身体活動は、年齢、性差、運動経験、体力レベルの違いにより、その処方の内容を考慮しなければならない。そこで各種トレーニングや身体活動を理解し適切な運動処方がプログラムできる知識と能力を習得することを目標とする。	○	◎			○	○	○	○	○	○
17JHSA1010	スポーツマネジメント論	1	マネジメントとは、チームや組織自体を運営し管理していく為に、必要な手法である。本科目では、チームやスポーツ企業組織の人的資源や物的資源を能率的に目的達成するために、組織の維持・発展を図る手法を学んでいく。	組織におけるリーダーシップとは何か理解する。チームにおけるモチベーションの保ち方を工夫できるようになる。組織運営における経営的マネジメント手法を理解する。(例/会場運営、チーム運営など)	◎	◎			○	○	○		○	
17JHSA2109	スポーツビジネス論	2	本科目は、スポーツビジネスに関する一般的な知識を身につけるとともに、スポーツビジネスの現場にて必要な実務能力の基礎を養うことを目的とする。	受講生それぞれがスポーツビジネス界の現場に立つことを想定し、現場で活用できる知識・能力を身につけると共に、将来にわたって学び続けることの必要性と重要性を理解する。	◎	◎			○	○	○		○	
17JHSA2110	コンディショニング実習	2	コンディショニングの基本概念と理論的側面を学んだ上で、スポーツ現場で特に有用な、ストレッチング、スポーツマッサージ、テーピングの基本技術を、実習を通じて獲得することを目的とする。	ストレッチング、スポーツマッサージ、テーピングの基本技術を獲得する。ストレッチでは解剖学に基づく筋の起始と停止を理解し、アスリート個々の身体特性を考慮したストレッチを身につける。スポーツマッサージでは、マッサージの各手法によって疲労した筋がどのように変化するかを経験する。テーピングでは特に足関節の内反捻挫予防のテーピングをシワなく巻ける技術を身に付ける。以上はいずれも現場でのコンディショニングに役立つ基本技術である。	○	○			○	◎	○		○	
17JHSA2111	フィットネス指導法	2	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身に付ける。また、運動継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	運動指導に必要な解剖学的知識、健康づくりを目的とした運動指導に関する方法論、運動指導に必要とされるコミュニケーションスキル、および運動継続を支援する動機づけスキルの修得を目標とする。	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
17JHSA1501	レクリエーション論	1	指導者を志すわれわれにとって必要なレクリエーションに関連する原理、心理、運動論、指導論、組織論、企画論、グループワーク論等の基礎理論を学習する。	コミュニケーション・ワークの援助を中心としたレクリエーション指導ができるよう、科目目的に記載したレクリエーションに関する理論の基礎を理解する。	○	◎			○	○	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
17JHSA2502	レクリエーション指導法演習	2	レクリエーションの基本は、指導者と参加者、参加者同士の身構えや緊張をほぐすところから始まる。参加者の意欲を引き出し「できる」「続けたい」「楽しい」という気持ちと呼び起こす方法を学ぶ。また、活動の内容を理解し、楽しく技術提供（指導）ができるよう学習する。	学生が、様々な場面で、指導者として、対象者に適した「あそび」を展開できるように、「あそび」を体験し、知り、深めていき、レクリエーションの楽しさには、対象者に合わせたねらいと目的がある事を理解できる様にする。指導者としての視点を育て、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、課題解決能力の向上にも繋がることも目標とする。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
17JHSA2503	レクリエーション指導法実習	2	レクリエーションの基本は、指導者と参加者、参加者同士の身構えや緊張をほぐすところから始まる。参加者の意欲を引き出し「できる」「続けたい」「楽しい」という気持ちと呼び起こす方法を学ぶ。また、活動の内容を理解し、楽しく技術提供（指導）ができるよう学習する。	学生が、様々な場面で、指導者として、対象者に適した「あそび」を展開できるように、「あそび」を体験し、知り、深めていき、レクリエーションの楽しさには、対象者に合わせたねらいと目的がある事を理解できる様にする。指導者としての視点を育て、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、課題解決能力の向上にも繋がることも目標とする。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
17JHSA1011	障がい者スポーツ論	1	我が国の障がい者数は、国民20人に1人といわれている。障がい者を理解し、その障がい者とスポーツの結びつきをサポートすることによって、障がい者にとって健康的な生活が生まれる。障がい者スポーツの実情とその施策振興など基本的内容を理解し、スポーツ活動を用いて障がい者へのサポートが行える基礎的能力を学習することが目的である。	障がい者とスポーツ、健康スポーツとの関わりを学ぶことにより、それをサポートする考え、能力を身に付けれるよう基礎的理論を育てることを目標とする。	○	◎		○	○	○	○	○	○		
17JHSA2601	障がい者スポーツ指導法	2	障がい者は、スポーツを行うことにより、単に体力が向上するだけでなく、社会性などが増し、日常生活が向上する。障がい者とスポーツを結びつけるためのサポート技術が、スポーツ指導者には求められる。工夫された障がい者スポーツの種目を学び、そして実技を通して指導法を学習することを目的とする。	障がい者スポーツは特殊なスポーツではなく、工夫をすることによって成り立っている。障がい者スポーツの基本的な考え、構成、ルールを理解するために、実技を通して学ぶ。また、種目、障がいに応じた考え方、安全管理、指導法等を学ぶことによって、指導能力の向上を目標とする。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
17JHSA2112	救急処置演習	2	日常生活に比べてスポーツ活動時に傷病発生のリスクは高くなる。緊急時に必要な救助や処置ができるように救急処置の知識と技術を身につける。また、本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	救急処置、応急処置、に必要な知識の習得をする。レポートにて知識の整理を行う。実習にて心肺蘇生法、止血、固定、等を行う。実習試験にて知識の習得の確認を行う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
17JHSA1012	体 操	1	体操は体づくりや動きづくりの基本を通して自己の健康・体力を維持増進しようとする運動であり、学習指導要領のリズミカルな動き、タイミングのよい動き、すばい動き、動きを持続する能力を高めることなど、種々のスポーツにおいて欠かすことができないため、授業では身体の基本的操作と創作能力や、実践能力を養う。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指導者として師範できるストレッチ、ラジオ体操第一および第二、異操作、その他の運動を習得する。また、体づくり運動で実施される種々の運動を実践し習得する。 獲得した知識・技能・態度を、指導者として生徒の健康・維持増進に貢献できる資質を身につけることが目標である。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
17JHSA1013	器 械 運 動	1	1. 学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解させる。 2. 学習指導要領で取り上げられている技を習得させる。 3. 運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学習指導要領に示されている「技」を取り上げ、その演技が出来るようになる。また、段階指導法を学ぶ事で、器械運動の練習方法の原則についても理解し、基本的な器械運動の「技」の指導が行えるようになる。授業内で成功体験をし、達成感を味わう事でスポーツの楽しさや価値を体感する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
17JHSA1014	トラックアンドフィールド	1	本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 陸上競技は中学校教科体育で取り扱われる。自己の限界への挑戦や自己記録の更新を狙って技能を高め競技し、記録を更新したときの喜びや感動を得られるよう努力すること。さらに、安全に留意した進行方法、勝敗に対して公平・公正であり、正しく記録を測定する方法を習得することを一目的とする。	短距離、リレー、ハードル、走高跳、走幅跳、砲丸投、中長距離走に関する自己の実技能力を高めることを目指し、中学校教科体育に於いて十分な示範ができるだけの体力、技術を修得する。別途配布する記録表に基づき、各種目で基準となる記録を達成することをノルマとする。また、トラック種目では計時方法、フィールド種目では記録の計測方法を中心にルールを理解し、公正な記録会を運営できる知識を修得すること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
17JHSA1015	ス イ ミ ン グ	1	水泳技術を獲得することは、自身と他人の生命を水の事故から守る事が可能となる。また長い距離を泳げる技術を修得することは、体力の向上、生涯スポーツとして健康の維持・増進に有用な身体活動である。本講では併せてプールでの実践と指導の事故防止と安全管理についても学習する。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	水泳の事故防止と安全管理について、指導上の留意事項と施設環境の整備について学習する。スタート・ターンならびに4泳法の基礎技術について目標設定された距離と時間(100メートル個人メドレー)を完泳することを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
17JHSA1016	バレーボール	1	6人制バレーボール、9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基本技能習得とゲームづくりについて学ぶ。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	まず、個人的な基本的技能については、自ら、指導者として見本が見せることのできる能力を最低限として習得する。また、ゲームを構成させるための組み立てや応用技術の習得、審判を含め競技会の運営能力を習得する。 さらに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
17JHSA1017	バスケットボール	1	本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。 この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 ＜知識・理解＞ バスケットボールの基礎知識 ルールと審判法の理解 初心者指導における留意点の理解 ゴール型球技における攻撃の原則の理解 ＜技能＞ バスケットボールの基本技術・基本戦術 審判法とゲームの運営法 初心者への指導法 ＜態度・指向性＞ チームワーク 積極的な「コツ」の受け渡し ＜総合的な学習経験と創造的思考力＞ グループの技術的課題や戦術的課題を、熟練者がリーダーとなりチームで解決する能力	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
17JHSA2113	ハンドボール	2	本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 「技術・戦術理論」 ボールを使ったコーディネーションスキル 様々なパス シュートの技術（主にジャンプシュート） 1対1の攻防スキル 攻撃におけるグループ戦術およびチーム戦術 防御におけるグループ戦術およびチーム戦術 「指導理論」 ボールゲームにおけるウォーミングアップの方法論 ゲームを中心とした、減算式指導法の考え方 ハンドボールの技術指導の考え方、コツ	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
17JHSA2114	柔道	2	本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
17JHSA1403	アクアエクササイズ	1	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	アクアエクササイズにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
17JHSA1801	海外の健康・スポーツの研究	1	国際化が進むなかで海外での生活体験を通じ国際理解を深めると共に健康・スポーツ指導者としての自覚を高め真の国際人の育成を目的とする。	海外の文化に触れ生活様式を経験することで国際的知識や英語力を身につける。	○	○			○	○	○		◎		
17JHSA1802	マリンスポーツ実習	1	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。	自然の中で行われる実習の計画方法や健康管理を理解し、安全に実習することができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
17JHSA1803	スノースポーツ実習	1	(1) スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習する。 (2) 自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な計画立案・運営指導の能力を身につける。 (3) 団体生活・団体行動を通じて、その態度を養う。	(1) スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法の修得 (2) 生涯スポーツとしてのスキーに関する知識の修得 (3) 自然に対する知識やスキー・スノーボード事故の防止策の修得 (4) スキー実習の実施に必要な計画立案・運営指導能力の修得 (5) 団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
17JHSA2804	キャンプ実習	2	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中での共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。	(1) 自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。 (2) キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動（アクティビティ）を通して自分の体力や精神力を鍛える。 (3) 将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、計画立案することができ、運営指導ができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
17JHSA2116	健康・スポーツ実践研究	2	健康・スポーツにおける実践的能力を身につけるためには、実践現場に即した実習や研究を必要とする。1年次に学んだ「初期演習Ⅰ・Ⅱ」をもとに、主体性・論理性・実行力を培い、応用的能力や実践的能力を高めることを目的とする。	健康・スポーツの実践現場の実情や問題点、その将来性など実践的に研究を行うことを目標とする。またキャリア形成と結びつけることを目標とする。	○	○			○	○	○		◎		
17JHSA1206	教職入門	1	1. 中学校教諭または栄養教諭として必要な資質能力や基礎的知識について講じる。 2. 特に教職の意義および役割、職務内容についての理解を深める。 3. 教育への理解と教職への関心を高め、進路選択における主体的な夢を喚起し、以後の学年次の教職課程履修への自覚と意欲を高揚させる。	①教職全体について総合的に理解し、2年間の大学生活および教職課程履修について、学ぶ意欲と計画性を高める。 ②教職の意義や教員の果たす役割を理解し、教職を志す意識を明確にもつ。 ③明確な教員像をもつことができるよう、教員の職務内容は校務分掌に基づき分担され、学校が組織として機能していることを理解する。	◎	○			○	○	○			○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
17JHSA1207	教育原理	1	中学校教諭または栄養教諭に必要な教育の基礎的理論について、以下の諸点から講じる。 (1) 人間学・教育学 (2) 教育の意義・目的・理念・歴史・未来 (3) 人間形成と家庭・地域・社会との関係 (4) 教育実践の理論と実際	①教育的営みの意義・目的等を理解している。 ②子どもの成長発達に関わる教育者の役割について、歴史的経緯を踏まえて理解している。 ③人間形成と家庭・地域・社会の関係性を理解している。 ④教育実践の理論と実際の関連性を理解している。 ⑤現代教育の課題を把握し、解決策を探求することができる。 ⑥教育の制度と経営につき、社会的観点を踏まえ、基礎的知識を修得する。	○	○			○	◎	○		○	
17JHSA1208	人権教育の理論と方法	1	1. 国際化、情報化、科学技術の進展など、急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちとともに新しい人権文化を育むことが教員に課せられていることを認識する。 2. そこで現代に適合した人権教育のあり方を探求し、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成について考察を深める。	①人権に関する諸問題が生じる要因について科学的に認識するとともに、その解決に向けての教育実践を構想できる教職の専門性を身につける。 ②また学習過程を通じて、自ら課題を見出し、人権教育の教育課程を自主編成できる能力を身につける。	○	○			○	○	◎		○	
17JHSA1209	教育心理学	1	1. 中学校教諭または栄養教諭として必要な基礎的な知識・技能について、心理学の視点から学ぶ。 2. 教育心理学の基礎知識や技能を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のプロセスへの理解を深める。	①教育心理学の基礎について正しい知識を身につけ、他者に説明できる程度に理解を深める。 ②学習者である幼児・児童・生徒の発達と学習について、教育心理学の基礎知識を活用して考えることができる。	◎	○			○	○	○		○	
17JHSA1210	障害児の発達と教育	1	1. 特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められることの現状と背景について講じる。 2. 各種の障害を有する幼児児童生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解し、インクルーシブ教育の具体化を模索する。	①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。 ②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。 ③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。 ④障害児を育てる保護者の心情を理解する。 ⑤障害児者が置かれている社会的状況を知る。 ⑥事例をもとに指導方法を考えることができる。	○	◎			○	○	○		○	
17JHSA2211	教育行政学	2	1. わが国公教育の理念と制度およびその行政・政策システムについて教育行政学の視点から講義し、歴史と現状への理解を深める。 2. 現代の公教育制度を運営・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的知識・技能を学ぶ。	①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について、生涯学習社会論の視点から基礎的理解を得る。 ②公教育制度としての学校教育システムについて、教育行政学の視点から基礎的知識を得る。	◎	○			○	○	○		○	
17JHSA1212	教育課程総論	1	1. 新教育基本法によるわが国教育の基本的な目的と方向性を理解し、特に「新学習指導要領」の理念や教育課程についてその基本となる事項や実践上の課題等、具体的な理解を図る。 2. 現場での教育課程の編成、方法や技術など教育活動をより効果的に実践していくための運営とその能力を育成する。	①学習指導要領を理解し、教育課程編成の基準となる事項および教育活動の内容を理解する。 ②教育課程論、教育内容・方法論等に関する具体的実践事例を通して、学校教育のあり方、カリキュラムのあり方を常に問い直すことのできる能力と姿勢を身につける。	○	◎			○	○	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
17JHSA2220	教育実習Ⅰ（中）	2	これまでの教職課程での学び全体を通して得た知識・技能と専門教育課程科目で得た知識・技能とを統合して、教育実習で積極的に活用する方法と態度を学ぶ。	中学校教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。 ①教師としての志＝目的意識および倫理観（感）を明確もつ。 ②教師・社会人としての対人関係能力を高める。 ③学級経営・生徒指導を実践する際の理念・構想・実践プランを具体的に描くことができる。 ④専門教科に要する基礎的な知識・技能を有し個別の授業を構想し、指導案を作成して、授業を展開できる。 ⑤専門教科以外の教育活動領域について、基礎的な知識・技能を有している。	○	○			○	○	○	○	○	○	◎
17JHSA2221	教育実習Ⅱ（中）	2	これまでの教職課程での学び全体を通して得た知識・技能と専門教育課程科目で得た知識・技能とを統合して、教育実習で積極的に活用する方法と態度を学ぶ。	教職実践力を構成する中学校教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に修得する。 ①教師としての志＝目的意識および倫理観（感）を明確にもつ。 ②教師・社会人としての対人関係能力を高める。 ③学級経営・生徒指導を実践する際の理念・構想・実践プランを具体的に描くことができる。 ④専門教科指導に要する基礎的な知識・技能を有し個別の授業を構想し、指導案を作成して、授業を展開できる。 ⑤専門教科以外の教育活動領域について、基礎的な知識・技能を有している。	○	○			○	○	○	○	○	○	◎
17JHSA2222	教職実践演習（中）	2	中学校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。	①中学校教員として高い教職倫理観を有している。 ②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を築くことができる。 ③生徒を臨床的に理解し、適切な理解を踏まえて、望ましい生徒指導および学級経営を展開することができる。 ④中学校教科を教授するに足る各専門分野の基礎的な知識および技能を総合的に修得している。 ⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行うための最小限の授業運営能力および態度を身につけている。	○	○			○	○	○	○	○	○	◎